

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

ばれてきた日本。しかし、いま多くの地方では、高齢者すら減少し始め、しかも若い女性が職場を求めて流出し、いびつな社会構造が、日本全体を縮小しようとしていて、在りた危機だ、この現場で詳細なデータ分析をした内容だった。

地域に若年女性が必要と考えるみませんか

2012年の数値・100人で全国ワースト1位、そして2035年厚生労働省がまとめた保育所持機児童数がダントツに多い1万1589人で全国ワースト1位の東京都に若年女性

「極点社会」という言葉が気になっていた折、NHKのクローズアップ現代で「拠点社会」という新たな人口減少「イシス」の番組を見たことができた。内容は、少子高齢化がま



白馬村・森上地区の春祭り。地域が年々高齢化するのが実感できる。

性が人口移動している。それによって、地方では若年女性が消え、限界自治体化し、首都圏では子供を産み育てられない女性が増加、結果的に日本全体が縮小し始めていくと問題視された。また、若年女性の多

くは正規雇用、働く事を希望してもかなわず、現実には、単身若年女性の3分の1に当たる10万人の年収は、114万円未満で貧困層レベルの生活を余儀なくされる格差社会の現状は、他人事じやないとの報道も聞かれる。

4月に人口問題研究所が発表した世帯数の将来推計によると、世帯主が、65歳以上の高齢世帯は2035年に40・8%と初めて4割を超え、その世帯の3分の1以上が一人暮らしとなり、多くの課題が生じると指摘した。

審判員からは「妻に先立たれたらどうやって毎日を過ごすか、いけるのか、すべて妻任せの生活を真直に受け止める必要はないのか、地域で使われる公的な費用を、どのように使っていくべきか、真剣に考えほしい」と思っている。

白馬村(森上)